

エコレザー対談



伊藤氏

タンナーを中心に
誕生した皮革産業

吉村 本日は埼玉県の草加地区で皮革産業に関わっている皆さんにお集まりいただきました。

草加地区には皮革関連の団体が4団体あると聞いています。ここで特徴的なことは、この業種、業態別に組織された団体が垣根を越えて、「オール草加」として共通の目的を持ち、新しいことにチャレンジしていることです。

まず4団体誕生の歴史や内容についてお話し下さい。

伊藤 当社はソフトレザーのタン

「オール草加」で企画・運営する
プロジェクト。「彩鞆」「ハイカー」で
草加の革製品をアピール

ナーですが、ここ草加の皮革産業は90年ほど前に、タンナーが東京・三河島から移ってきました。初めにタンナーを中心とした地場産業の発展があり、そこに革を使って加工される方々が集まってきたという歴史があります。

皮革関連の団体は、初めに埼玉県皮革産業協議会と埼玉県部落解放同盟草加支部の2団体がありました。ここにタンナーと縫製など加工屋さんも一緒にあって誕生したのが、埼玉皮革関連事業協同組合です。

草加地区にはこれらの団体に所属していないが、革で物づくりに関わっている人たちは多くいます。

そういう人たちが一つになって、2002年に発足したのが、そうか革職人会です。

吉村 「オール草加」で活動するに至ったいきさつは、どういったことでしょか。

伊藤 4つの団体が個別に何かをやるよりも、団体の垣根を越えた「オール草加」として一緒に、いろいろな意見を出し合い、一つの事業を展開して行くほうがいいのではないかと、という機運になってきました。この「オール草加」は、企画を中心にプロジェクトチームを作り、事業を展開して行こうと



竹下氏



吉村氏

いつものです。

エコレザの「彩靴」は ランクアップで再構築

吉村 “オール草加”の事業の一つに、ブランドの立ち上げがあります。地域ブランドいえる「彩靴(サイホウ)」は、日本エコレザを使って展開される草加発のブランドです。

竹下 当社はバッグや小物のメーカーです。

地元にある大学の依頼で卒業記念品の名刺入れなどを作ったこともありました。

チームのブランド「彩靴」に付いては、常に創意工夫を凝らして、革を使って作る靴やバッグだけではありきたりだから、そういった物以外の、発想の違った製品も作るうと、日本エコレザを使って、インテリアとして楽しめる、手すりやスイッチカバーも作っています。

森田 婦人靴メーカーですが、「彩靴」ブランドへの取り組みは、飛行機内で履く携帯用スリッパを、エコレザで作ったことがあります。

ただし、婦人靴にエコレザを使うとなると、まだ難しい部分があります。

いかに靴らしくできるのか、ロツトに見合う素材数をそろえられるのか、エコレザという付加価値の高い製品をどう消費者に知らしめ、素材に見合った値段が取れるのか、などの問題がありました。

河合(泉) 会社は夫と一緒にセラチンやコラーゲンの原料を作っています。レザータウン草加プロジ

エクトの事務局として手伝っています。

「彩靴」製品はそれなりに売れています。すでに開発から10年ほどが経ち、これが「彩靴」だというモノが薄まっている嫌いもあります。

そこで、今あるモノよりも何倍もランクが上のバッグをエコレザで作るなど、「彩靴」のアイコンとなるような製品を新たに作りたいと考えています。

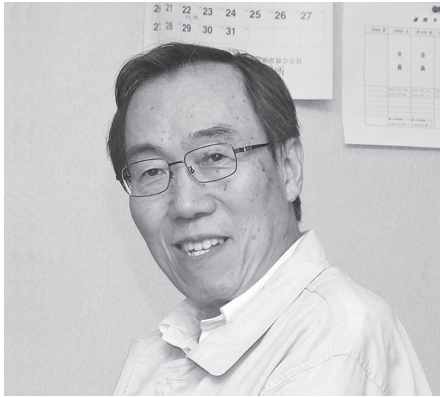


「ハイカー」

新たにスタートした 「ハイカー」ブランド

竹下 チームとして、新たに挑戦しているのが「HIKER(ハイカー)」です。

これは、グランピングなど近年ブームのキャンプやアウトドアに向けて立ち上げたブランドです。県の支援や外部クリエイティブチームにも参加いただき、革で作られたストーブ用の薪ストッカー(薪台)など、市場にはないような、斬新な発想で製品開発をしてい



森田氏



河合泉氏

草加の革でこんなすてきなモノが作れることを知らしめることも目的です。

河合(泉) 「ハイカー」のブランド名には、アウトドアを歩くハイカーのほかに、松尾芭蕉が「奥の細道」を詠んだときに、ここ草加が最初に泊まった宿場町であることから、「俳句」をもじった「ハイカー」にしました。

ブランド戦略として、「伝統のある技術で」とか、「職人が苦労して」というよりも、プロダクトやグラフィックデザインを際立たせ、さらっと、かつこ良く見せて行きます。

河合 「ハイカー」の立ち上げでも、業種が違う有志の人たちが「オール草加」で集まっており、皮のなめしから染色・塗装などの加工や最終の製品化まで、全て草加市内でできていることも強みです。



「ハイカー」

「米ぬかなめし」で草加らしい革を開発

稲次 「彩鞆」では日本エコレザーを積極的に使っていますが、エコへの取り組み第2弾としては、「米ぬかなめし」の開発が進んでいるようです。これについてお聞かせ下さい。

伊藤 「彩鞆」を展開する過程で、

草加らしい革を作れないかといった話が出てきました。そのなかで、草加はせんべいで有名なことから、米を加工する過程で出てくるぬかを、革作りに応用できないかということになり、ジヨナル・レザーさんに開発に取り組んでもらいました。

沼田 染料による加工ではなく、なめしの段階から開発しようというところで、一年以上実験を繰り返してきました。

油なめしとは違う方法で、米ぬかから取れる米もぬか油を使ってなめしています。

自社ではクロムなめしもタンニンなめしも行っていますが、米ぬかなめしでなめされた革は、そのどちらでもない独特な味の革になっています。

油なめしよりも耐熱性は高く、今は80度までに耐えられるものになっています。

稲次 まだ希少な革ですが、革の値段はどのくらいになるのでしょうか。

沼田 純正の米ぬか油自体が高い



沼田氏



河合氏

『そうかわ塾』を開講し 次世代の人材を育成

物ですから、革についても値段は高くなると思いますが、革の強度は十分にありません。
また、想像していたよりも軽く仕上がっており、自分ではほぼ完成に近い物だと考えています。

沼田(真美子) 革自体が白く仕上がるため、クロムレザーよりも染色性は良いし、そのまま使っても面白い革になると思います。ツヤが出て、手に吸い付く感じなど、風合いという点でも気に入っています。

稲次 鹿やイノシシによる害獣被害が全国的に問題となっています。草加では同じ埼玉・秩父地方の鹿皮を積極的に受け入れているようですが、どのような取り組みでしょうか。

伊藤 県の事業で害獣の駆除が行われており、皮についても埼玉の特産品として利用できないかという話が以前にありました。課題だった脱毛までの準備工程

も草加でできるようになり、なめしから製品化まで草加で行うようになりました。

さらに秩父の道の駅で商品を販売するというように、鹿皮の加工・販売のサイクルができました。

エツシカの皮もなめし加工から製品化の相談まで受けています。今後、全国から鹿皮が集まって来るようになれば、ピツクル(ピツクリング)の段階で保存し、クロムなめしだけでなく、革の用途によつて米ぬかなめしやエコレザーなどでも対応できます。

稲次 これも全国共通の問題でしょうが、世代交代、事業承継に付

いての“オール草加”の取り組みはいかがでしょうか。

伊藤 靴・バッグを作る人や縫製をする人はいますが、タンナーになろうという若者が少ないのが現状です。

そこで、草加の皮革産業を担う次の世代については、草加で生まれた人でなくても、若い人たちに草加に来てもらい、革職人になってもらおうと考え、「草加で皮革かわ職人になる」と題した『そうかわ塾』を10月から開講します。

茂垣 当社はエコレザーを使ったランドセルを製造しているほか、OEMでバッグを作



秩父の鹿革のバッグ

っています。

息子は、神社のお守りを革で作るなど、アイデアを生かした商売をしています。

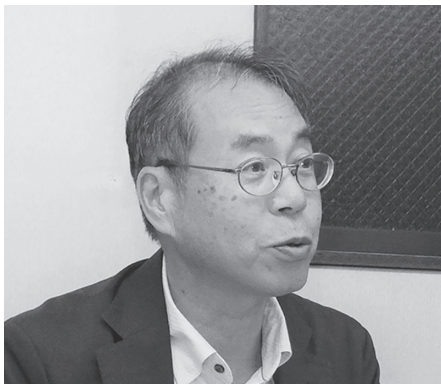
職人の高齢化は問題であり、私も「そうかわ革職人会」の副会長として、若い人を育成する事業に協力しています。



茂垣氏



沼田真美子氏



稲次氏

高いレベルでクリアし 差別化を進めるべき

稲次 2009年にスタートした日本エコレザーについては、安心・安全な革として、草加地区の皆さんには「彩鞆」やファーストシューズで積極的に取り上げてもらっています。

今日の座談会でのお話では、さらにステップアップされるよう、心強く思いました。

日本皮革技術協会は毎年5カ所ほどで、日本エコレザー普及のための講習会を行っています。そこでは皆さんの活動を成功事例として

て紹介させていただいています。

吉村 革はナチュラルなもので、持続可能性のあるものです。エコレザーなど人に優しいものであることを、もっとPRしていかなければと考えています。

この日本エコレザーの認定基準は今年、改訂する予定です。

日本ではすでに当たり前に取り組んでいることですが、国連が提唱するSDGs（持続可能性な開発目標）も明記し、新たな日本エコレザーの規定を考えています。

沼田 もっと厳しい規定になるのでしょうか。

吉村 これまで以上に厳しいものにしたと考えていますが、現状の皆さんのものでは、新たな規定でも認定されません。

低いレベルに合わせるのではなく、今治タオルや豊岡鞆の例のように、高いレベルの規定でないと差別化にはなりません。

日本エコレザー、6つの条件

- ①天然皮革である
- ②発がん性染料を使用していない
- ③有害化学物質の検査をしている
(ホルムアルデヒド、重金属、PCP、禁止アゾ染料)
- ④臭気が基準値以下
- ⑤適切に管理された工場で作られた革
(排水、廃棄物が適正に管理された工場で製造)
- ⑥染色摩擦堅ろう度が基準値以上



<http://japan-ecoleather.jp>



草加地区の皮革関連の皆さん